



栄養評価

# 栄養に関連するリスク因子

多くの因子は、特定のペット、食餌、給餌方法、環境に関連すると考えられており、ペットの栄養状態はこれらの因子の影響を受ける可能性があります。通常、こうした因子は病歴や身体的検査で同定されます。

一部の因子は、ペットがそれ以外について健康であれば、詳細評価が不要となる場合があります。しかし、そうした因子が存在すると、獣医医療専門家はよりきめ細かに患者を観察することになります。ペットの栄養状態に影響を与えることが知られている特定のリスク因子には、次のようなものがあります。スクリーニング評価中に同定されるリスク因子の数が多いほど、患者にとって詳細評価やペットに合わせた栄養プランが重要になってきます。

キーメッセージ

スクリーニングにより同定される栄養リスク因子で、詳細評価は任意であるもの

- 活動量がきわめて低いまたは高く、ボディコンディションスコアが正常である
- 多頭飼い家庭
- 妊娠
- 授乳
- 成長期
- 7歳以上

スクリーニングにより同定された栄養リスク因子で、詳細評価が必要なもの

- 消化管機能が変化した履歴がある
- 持続する疾病/疾患
- 現在治療を受けている、または補助食を摂取している
- 一般的ではない食餌（生食、自家製食、ベジタリアン食、聞き慣れない食餌など）
- スナック、おやつ、人間の食べ物が1日あたり総カロリー量の10%を超えている
- 不適當または不適切な飼育場所

身体的検査の所見により、詳細評価が必要であることが示唆されるもの

- ボディコンディションスコアが4未満、または6を超える（9段階評価）
- マッスルコンディションスコアにより筋消耗が同定された
- 説明のつかない体重の変化
- 歯の異常または疾患
- 皮膚や被毛の劣化
- 新たな疾病

その他のリソース

Baldwin, K., Bartges, J., Buffington, T., Freeman, L. M., Grabow, M., Legred, J., & Ostwald, D., Jr. (2010). AAHA nutritional assessment guidelines for dogs and cats. *Journal of the American Animal Hospital Association*, 46(4), 285–296. doi: 10.5326/0460285

WSAVA Nutritional Assessment Guidelines Task Force Members, Freeman, L., Becvarova, I., Cave, N., MacKay, C., Nguyen, P., Rama, B., Takashima, G., Tiffin, R., Tsujimoto, H., & van Beukelen, P. (2011). WSAVA nutritional assessment guidelines. *Journal of Small Animal Practice*, 52(7), 385–396. doi: 10.1111/j.1748-5827.2011.01079.x

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。